

# 東峰の弾圧

12  
15  
No.1

六月開港阻止 = 一着機を飛ばすの  
四千米滑走路粉砕  
一期工事粉砕  
パイプライン建設阻止・因連事業粉砕  
天浪共同墓地強制収用阻止  
三里塚闘争労働連絡員誌

## 権力の弾圧を断乎として粉砕せよ

青行隊員等11名不当逮捕糾弾

12月8日午前5時30分4/18県警の400名の村勤隊100名の私服により石井新一君、島村昭治君、前田勝雄君、石橋光雄君、戸村重雄君、秋葉義忠君、石井司君、石橋武司君と少年の9名の青年行動隊員1名の三高協の少年として1名の都内高校生計1名の同志諸君が我々の戦列より奪われた。12月16日の水二次収用阻止闘争の過程において東峰地区を中心にして斗い闘われた村勤隊はソ連戦の軍後逮捕である。

9・16斗争以降権力は常時百数十の村勤隊を空母公園戒備司令部に配置し、現住民野舎は我々の攻車を恐れ事実上専ら管理を行なわず村勤隊員宿舎と化している。検索と称しては赤色地域 = 三里塚周辺を広く破壊し、学生・青年隊“特リ”とし家宅捜査と称しては、団結小屋の破壊を行なっている（たとえば①井戸の中にガソリンを投げ入れる。②布団にしょう油をかける。③席のガラスを全て割る。④家の中に小便をぶる等々。）このように権力は赤色地域における聞き込み及び家宅捜査が一切何の証拠も見つけ出せないという方針である。更に肉体的精神的弾圧と団結小屋の破壊にのみ狂奔している。そうした中であらゆる物的証拠も存のまま、あつち新でさえもが認められ、16日当日の凶器準備暴行罪・公口執行妨害罪容疑によってく別件逮捕>を行なった。ヘタな鉄砲も打ちや当る式の逮捕と、弁士接見の直前、早朝から夜間に渡る取調伏等によって自白の強要が各警察署に開放させられこけるさつこの同志に行なわれている。又12月10日検察庁前に毎名の反対同盟員が結集し、個々の警察から送られるこける11名の全この同志諸君を乗せも車をとり囲み、同乗の警察官を糾弾し不当逮捕された同志諸君との同流を勝ち取った。これに恐怖した検察庁は、地帳敷地内からの退去命令と罪名にそって反対同盟員を暴力的に排除

した。これに対して戸村委員長を中心に反対同盟は地裁前によりて抗議集会を斗い闘った。現在権力は完全黙否を斗い闘く11名の同志と復讐を忘れ接見活動に廻る弁士及び全この反対同盟員そして労働者・学生・市民の中から湧き上ぐる抗議の渦の中にあり行き詰っている。こうした中において不当逮捕された同志の奪還にむけた救援活動は勿論来年1月に予定された天浪共同墓地及び藤崎恒治さん墓地に対する強制代執行阻止、パイプライン埋設阻止として来年6月の発表された開港粉砕に向けて我々は反対同盟と共に断固として斗い闘く決意を固めていまし、今更の不当弾圧が我々と反対同盟の団結をさらに堅くしていることを権力に思い知らせようではないか。

## 来春1月墓地代執行を断固として阻止せよ

直ちに臨戦体制を組織せよ

12月8日早朝4/18県警は村勤隊私服500名をくり出し、青年行動隊員等11名を不当にも逮捕した。しかも“9・16東峰の殺人事件の別件”という形。我々は9・16斗争の偉大な成果を踏襲し、発展させ、とりわけ別件逮捕をまるごと上げによって反対同盟青行にかけこきた弾圧を絶対的に許すことなく、これを粉砕してゆかねばならない。

空港問題はこの青年逮捕に期を促わす新空港12年6月開港を外国輸送空社に通知したという、“つづぬゆく反対同盟→国家的事業の着実な進展”なる印象を形成せんがために、建設公団の空港完成のプログラムは全くの希望的観測にあきなり、小川明治さんの眠る天浪共同墓地はターミナルビル前の工アロコの工事と断固として阻止している。藤崎さんの民家畑・山林は着陸帯の北端の無障害地区にくり返り公団の収用工作を断固として拒否している。

5年半の斗い、とりわけ今年の水二次収用、7月仮死水二次代執行阻止斗争を激烈に斗い闘った反（裏につく）

対面型と我々は一期工事の最終段階を迎えて、一期工事阻止・開港阻止の確成体制を構築せんとしている。公団は天浜共同基地の代執行を来年中にも行なわれんとしている。開始日より一年以上返らせられた公団＝叔父は国家的威厳をかくは来年中にも開港を決定し、これから逆算した代執行・強権発動をかけて来ることを明らかにした。

公団側の予定は次の様である(2・9東京新聞)の基地は詭計の「余地なく」1月中は代執行。  
②藤崎さんとは詭計の「余地なく」1月中は代執行。  
③平和の塔は詭計の「余地なく」1月中は代執行。

三ヶ所の物件の移転が来年中3月初旬に試験飛行を開始する。以上を運輸省・公団・千葉県で留意した。千葉県知事及納は二次代執行後「写後は代執行は行なわれぬ」と何度も言明している。12月13日千葉県議会でも「1月代執行せず」といっている。だが我々は何度彼にたまさか我々が計画段階の開始で応えねばならぬ。再び三里塚全域を叔父＝公団への激しい怒りで真紅に染み込ませようではないか。

我々は来年中6月開港に対して、これを粉砕するつもりで闘いを開始せねばならぬ。一期工事阻止・開港阻止の視座なくして、今後の三里塚の勝利は争い、三里塚斗争の歴史を一般の闘争の歴史の中に埋没させてはならぬ。闘争の歴史を三里塚斗争の歴史に引き上げることこそが我々の課題である。善行の子供上げ逮捕・三宮文明君を死に追いやり殺さずには居られぬ。闘争の歴史を我々の怒りであり闘いの創造力である。代執行を阻止し、更なる政治的斗争へ直ちに確成体制を構築せよ！各工場の強化と、闘いの強化を直ちに組織せよ！

### ハイライン阻止闘争にむけて!! 公団千葉県市当局の暴走粉砕

空速公団は関係各航空会社に、明年6月開港を正式に通告したという。これは途につめられた公団のあせりの表われ以外の何物でもない。第一期工事用地内に多く収容対象地を強引燃焼用ハイラインに至る。これは未だ埋設工事に着手しないうちである。

千葉県～三里塚間長44Kmのハイライン埋設を現在に至るまで阻止しているのは、唯一に千葉

市内での10月近い反対運動の成果であると言えよう。まさに「昨年夏」には公団はP.L建設の全計画を完成し、千葉県市当局に解き得たと言われ、我々は充分な根拠をもって断言しよう。それは公団はじつに1年近くも「極秘」にし続け、埋設ルート公表を要求する地元住民を無視し、敵対し、続々県とりわけ市当局も直接間接に公団の手先たる役割を果たしてきた。

8月19日のルート発表までに埋設用地は予定の100%確保され、千葉県及び空港内の関係設備はほとんど完成していた。千葉県市当局は市内通過かに関して事前に水道本管理設の為道路拡張という口実で早くギマン的に用地を地元住民から買収することさえしていたのである。

着工のタイムリミットと反対運動の高潮の前でもやむなくルート発表に踏み切った公団は、以後沿線住民に露骨なP.Rを開始。P.L強めながらも、危険なタンクローリーを毎日延1500台も走らせるがそれではおぼつかない。たまたまに始まり、ジェット燃料は家庭用灯油より燃えにくく、と全く次の道うナンセンスな比較を試み、地震にも心配ない、とデタラメな説得を試みている。こうした「安全性」P.Rに最大の「学問的权威」を提供した東大工学部奥村教授は、しかし同学部助手の要求の前に自己の楽天的無責任な結論をほぼ全面的に撤回せざるをえなく承っている。

他方、終始住民無視を続けてきた市長荒木はじめ、千葉県市当局は、臨海と国地自治県連盟等による1万8千余の反対署名陳情に対し、市議会に特別委を設置し、住民の意向を反映する態度をみせている。しかしこれは全く形式的なものである。特別委の党派構成はほとんどP.L賛成派でしめられ、つまり法的にはこれはP.Lに対して何の規制権限ももたない。公団による道路埋設認可申請に対して、市長は強断をいつでも「専決事項」許可をだせるからである。陳情否決の予測された最終日程たる11月15日、公団を拒否し続けた特別委の議場に、これまで反対運動を一貫して押し続けた「市民の会」をはじめ教十名は市当局の妨害をはねのけて突入し、委員長を糾弾ついに流壇に至らしめ、結論を明年1月15日の再開時にまるとちこさせた。

しかし市＝公団はこの2ヶ月を早く空白のままに

まごころとは限りません。市長の独断独走はいつまでもありうるしまた公団も埋設工事を千代市以外のどこからでも開始しうるからである。もはやP.L阻止は千代市内の反対運動にとどめられるべきものはなくなっている。田村湖走路粉砕・第一期工事阻止の戦線があらゆる側面において展開されかつ空港粉砕の一点に結集されるべきことは言うまでもない。公団・政府・自治体が一体となった住民無視・人民弾圧に対してわれわれの反画もまた三里塚から千代へそして全国へと展開されるべきである。東関東自動車道沿いの富里村においてもP.L埋設に対する異議は村議会に提起されP.L阻止=空港反対の運動は新ためて開始されようとしている。三里塚から千代へ向って我々自身各地元住民と呼称し連帯してP.L阻止に向けて闘争を開始すべきである。

これまで千代市内で幾度も戦線的に反対運動を展開してきた市民の会（P.L埋設に反対する千代市民の会）と労学連は12月15日（日）市内西千代駅前で午後6時P.L阻止に向けての討論を行なう予定である。多数の結集を要請する。

### 保釈金カンパを集中せよ 救済アッピール

7月の仮処分阻止闘争、9月の強制収用阻止闘争を果敢に闘い抜き更なる戦いにその橋頭堡を打ち固めている同志諸君に救済からの若干の報告とカンパの要請をおこないます。

7月の仮処分阻止闘争において十数名の起訴者を出しました。とちやに及び不当長期留置の木保釈を獲取りました。各丁丁々の朝り当保釈金負担額の集まりが目標に達せず現在かまりの借壁をしなければならぬ状況です。

毎年一杯の内に9月強制収用阻止闘争の起訴者の保釈もかちとりました。年末まであり出ロがかさねひける事と懸りますがカンパもお願ひします。なお7月の統一被告団の統一裁判に向けてのカー直取闘争の闘争を行なったことを報告しておきます。

労学連に結集する屋での同志諸君！我々は自らの戦線と組織強化に向けて、救済のカンパ要請の断頭としてカンテリしようではないか！三里塚闘争の要諦を躍りかけて！

### 密集した強固な現闘団を組織せよ 労学連現地闘争団

三里塚闘争の更なる強化と躍り向けその組織化を打ち固めている各戦線に対して労学連現闘団は来春1月の天袋共同墓地強制収用阻止に始まる12年三里塚闘争の勝利的前進に向けての現闘団強化を訴えます。有り振りかまわぬ叔力=公団の来春6月開港そのものさえも早面的に粉砕し抜く為に私はより一層現闘団の組織を堅固なものにしてこれ以降の闘争を保証しなればなりません。

現地的に資力が不足しているのは言うまでもないが、なによりも現地の諸運動諸工作を担う人間が不足している。このことは労学連の運動・組織を此自体を危殆の状況に陥らせることにもなる。かかる意味において各戦線は現闘団を組織し、ローテーションを繰り返して現闘団に結集してほしい。50名以上の密集した強固な組織力をもって三里塚闘争の勝利に向けて闘いを開始して行くのはないか。

最後に青行隊員等11名の不当不法逮捕に至るの同志諸君とともに裁量の怒りをもって、これを糾弾し、かかる叔力の弾圧をばねのけて前進しようではないか。

### 欠陥新空港を最終的に葬りされ

数千億の費用と強制的農民圧殺のもとに国家の威信をかけて作らんとした“新東京国際空港”は世界に類のない欠陥空港として、今や国家のメンツのみによって傷だらけの姿で政治的一番機を飛ばすことを唯一のたのめとすることになっている。来春6月開港は公団にとって網渡りであり、我々の闘いでもろくも粉砕されるものだ。最近指通されてきているこの欠陥性は、だが何よりも反対同盟農民の六年間にわたる不屈の闘いによってもたらされたものである。公団の頭は今とにかく一期工事の完成をとのめであり、二期工事の展望は全く存在していない。

われわれは今この“欠陥空港”に重に追撃をかけ、最終的に葬り去り、大地を奪還する闘いに全力をあげて闘わねばならない。

後にこの“欠陥空港”の密観的全ボウを明らかにする資料を発行するつもりであるが、今この欠陥性を列挙するならば主なものは次のよう

(つら)

なものがある。

①空港側の進入区域の用地が未収用(空港敷地端から300m×1100m、公園収率は30%)、残りは農地農民が占有している)であり、この地に進入(中120m×900m)及び無線施設等の航空保安施設を配置しなければならぬことが必要である。さらに岩山鉄塔(高さ第1新巻山頂から100mの位置)によって幾何的に四季米羽走線が崩壊され、これを750m短縮せざるを得なくなった。岩山鉄塔の位置をこの位置に「ターマーカー(無線施設)を配置しなければならぬのだ。

②航空地帯論がハイライオン(千葉県から千葉県内花園出地、真岡東海高速道路、資材輸送道路、電線など)を以て地帯論争の中心(幅員まで4km)が千葉市民の反対闘争により未だ着工できず、千葉県長が強引に認可して着工は3月であり、用途6月には既に合致ない(最遅で6ヶ月はかかる)、工事が開始されたなら反対闘争も展開されるだろう。こうに當面でも反対闘争が組織化されている。排水にも半(1)の次の手があがるであろう。

(3)二期工事の見通しは全くたまたまのばかりか、一期工事内にある二期工事のき並みに遅れている。泥水処理、雨水排水の向題は解決せず、大雨→周辺水害の危険性が大きいである。

(4)完全性の欠陥 - 岩山鉄塔の存在、保安施設、航空管制上の全くの矛盾(鏡子広域レーダーは73年3月以後にしかできない、三宅島VORは来年11月以降、羽田の空域との調整は76年以後にしかできない。)一辺空港の条件であるカテゴリにはできなくなった。

(5)自衛隊・米軍空域の存在。北側には百里航空自衛隊基地がありその空域は茨城県沿岸全域を占めており、さらに米軍専用B-1V E14ジェット・ルートが横切っており、西側、南側は羽田空域で狭小。

成田空域は非常に狭く極めて的運行となる

(5)交通機関の問題

成田空港は東関東高速及び京成電鉄の線であり、成田-東京の交通は飽和状態である。中)ルルから3時間で成田着、それから東関東、常葉、首都新速と通って自然)1kmを飛ばして東京に着くのは4時間以上かかるのだ。成田新幹線は計画が立たず、

(7)騒音対策一全くなし。因座地に作った空港の騒音は想像を絶するものであり、90-110フォン(ガード下の音)以上の音の量が昼夜問わず発生する。公園は今まで何ら対策する気はない。最近になって11月1日より公園の音響調査を行い、何分も騒音計を動かさず、やる気など全くない。ジェット機が飛ぶに住民はたえられず逃げ出すであろう。→無人化 →騒音の騒音対策

——欠陥空港を契に騒音の騒音対策